慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	社会主義の取締；新政党組織説；文芸院設立の風評；袁世凱氏の辞職
Sub Title	
Author	竹, 葉
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.1 (1909. 2) ,p.103- 110
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	時評
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090201-0103

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ど捕捉するに由なかりし社會學も是が爲に漸く統一の時期に近づくことを得たるは斯學の爲に偉大なる進歩と云はざるを得ず。

爰に聊か根本的なる社會的事實に關する兩大家の學說を比較し少しく鄙見を加へたり。然れども余豈敢て自ら微々たる此小論文を以てして堂々たる世界的の二大學說を評し盡くせりと云はんや。更に研究を積み重ねて江湖の敎を請はんとす。

時評

○社會主義の取締

竹葉

社會主義者なりと目せらるゝ某氏莞爾として笑語すらく、吾家は戸締を要せず、警吏常に之を守れればなりと。他の某氏憔然として嘆じて曰く、我が再び獄門をくゞるの日は恐らく我が命を絶つの時ならん。吾人は初度の幽囚と共に未だ曾て覺えざる病根を得たりと。彼等の語一々之を信ずること能はずと雖も、然も吾が當局者が殆ど想像し得べからざる周到なる注意を彼の徒に向つて注ぎつゝあるは事實なり。頃日芝署の一警吏義塾を勸うて某學生の性質素行を糺せるあり、其何が爲めなるやを問へば、白面黃嘴の一生が某地方紙閲に投じたる一論文、些か社會主義的臭味を帶べるの故を以て端なくも神經過敏なる當局者の忌憚に觸れて彼も亦所謂注意人物の一人として數へらるゝに至りしなりと謂ふ。

社會主義は私有財產自由契約の二者を基礎として組織せられたる吾が社會制度より生ぜる當然の產物なり。福澤先生常に曰く、吾國にも早晚社會主義の發生を見るに至らんと。

果然吾國にも社會主義を標榜して立つ二三氏を出せり、而して之れに附和雷同する數十名の男女を見るに至れり。然れども彼等が自家の標榜し絕叫する社會主義に對して如何なる研究をなし、如何なる信念を有するやは頗る疑問なり。Sienkiewicz の描ける兇漢 Chilo は自ら稱して、我れは必要上已むなくストア學者たるものなり、我がストア主義を環らすに薔薇の花環を以てし、傍に置くに一瓶の美酒を以てせば、余は總てのエピキユリアス派をして聾せしむ程の高調子にてアナクレオンの歌謠を唄ふ可しと、我國の社會主義者と稱ふるものにして其腹と財布の滿ちたる時資本制度の美を謳歌せざるもの幾何かある。

社會主義は現今社會制度の缺陷より生ぜる必至

の病患なり。學者は其因つて來る所を窮む可く、爲政家は之を救治するの策を講ず可し。彼の所謂社會主義の徒の如きは其咆哮するに委せて可なり。徒らに神經を過敏にし只管之れが言動を箝制して撲滅を計るが如きは、反つて彼等の氣焔を高からしめ其反撥力を大にし、之れが爲めに極めて印象を止め易き青年學生の頭腦に危險なる思想を注入して之を誤るの因とならん。目今吾が國民の間に幼稚なる社會主義の理解を宣傳するに與つて最も力あるものは所謂社會主義者の言說にあらずして、寧ろ彼等に對する政府當事者の極端なる取締に在るなり

○新政黨組織說

議會に於て絶對的多數を制し得と稱したる政友會は降りて野に立てり、桂侯は代りて內閣を組織せり。彼は素より自己の帥ゐる一政黨をも有するものにあらず。何に安じて政府に立つことを得るか。單に彼は今年度豫算案に向つて政友會が明に異圖なかる可きを信ずのみを以て安ずることを得ざるなり。蓋し彼の內閣の地位をして安堵ならしむるものは彼を圍繞して立ち、彼の意に從つて行動せんとする幾多の與黨あればなり。彼等の範圍を畫す可き線は極めて漠然たり。大同派、戊申倶樂部は固より進步黨政友會中にも亦決して其數少からざるべし。新政黨組織とは卽ち此の漠然たる大集團に確然たる政黨の形を與へんとするものなり而して其運動の如きも亦長く暗中に物を索むるが如くなりしが政權に饑ゑたること宛も肉を得ざる斑狐の如き進步黨中の所謂改革派が自黨を脫し、走りて戊申倶樂部派に投せんとせるよりして漸く明になり來れるなり。

由來日本の政界に對峙し來りしものは確然たる組織體形を有する政黨政派にあらずして、空漠として捕捉し難き不定の團體なり。之れを白日の中に曝せば忽焉として消失するも、再び暗中に入れば一定の成形ある集團となる。吾が政治界の表面に現れて戰はれたる戰は眞の戰にあらずして、宛

然戰はれざるが如き陰面の戰が眞乎の戰なりしなり。而して伊藤山縣二公は長く戰へるが如くにして戰はず、戰はざるが如くして然も戰へる兩黨の首領たりしなり。二公は漸く將た背面に隱れんとして新に現れたるものは西園寺、桂の二侯なり。二侯の周圍には之に據つて政權の甘き蜜をすゝらんとする數多の黨與の蝟集し來れるを見る。西園寺侯に依るものは政友會の名の下に稍や明確なる範圍を示せり。桂侯に依らんとするもの亦自ら政黨の名を冠して明瞭なる體形を示さんとす。卽ち所謂新政黨なり。

果して新政黨の組織成るや如何、問題は係りて桂侯內閣が克く爾來標榜し來りし超然主義の名目を棄てゝ政黨內閣の外着を着くるの決意あるや否やにあり。

彼にして此決意をなしたる時は卽ち、旣存せる黨氣たる黨與に確然たる政黨の形を與ふるの時にして、同時に又吾が國二大政黨を基礎とせる(假令疊東なきながらも)稍や光輝ある政治組織に入るの日なり。

○文藝院設立の風評

近頃文學に關する出版圖書の檢閱權を文部省幷に警視廳の手より移して、新に文藝院なるものを設け、其檢閱委員の審議に附せしめんとするの議ありとの風評を傳ふるものあり。或者は更に此風評の奧を搜りて、之れ吾國文壇の師匠にして同時に醫務局長の椅子に座する森林太郎氏が近來文藝に關する當局者の取締に嫌らずして自ら之れが建議をなせるものなりと謂ひ、他の消息通は尙ほ一步を進めて曰く、森林太郎氏が該院檢閱委員の候補者として數へたるものは巖谷季雄、廣津柳浪、高濱淸、正宗白鳥、田山花袋、泉鏡花、德田秋聲、小栗風葉等の諸氏にして、提出者たる森氏は山縣公の信任厚ければ恐らく此回の建議も結局之が採用を見る可きも、唯だ目下文部省は經費の出所無きを理由として暫く其手に握り潰しつゝあるなり云々と。然るに他の消息通は前者の言を否定して

誤聞となし、森氏が文藝院設立の建議書を文部省に向つて提出したるにあらずして、事實は反つて文部當局者が同氏に對して文藝に關する取締方法を質し其意見を求めたるものにして、彼の檢閲委員の姓名等に就きては一言も之を口にするとなかりしと謂へり。森氏が果して文藝院設立の建議者なりしや否や、消息通の言、孰れを信ず可きや、素より吾人の與り知らざる所にして唯だ風評子のとり〴〵なる噂に委して可なれども、這個の風評の近日所々に傳へらるゝを聞けば、其の風評を生み出す可き多少の事實ありしは疑ふ可からず

藝術家と雖も亦社會の一員にして國家の粟を食むものなる以上は彼等が製作の自由は唯だ社會の風教を紊り國家の成章を破らざる範圍に於て許容す可きものなるや論なし。不倫醜穢なる材料を取つて淫猥野卑なる文字を以て之れを描寫し、然も稱して自然は遂に自然なり、美にあらず醜にあらず、藝術家は唯だ其自然の一局を捕へて自由に大膽に描き出すを以て其天職を全うせるものなりとなすは固より國家社會の上より見て許す可からず。之が取締の局に當るものは須く斷乎たる措置に出づ可きなり。說を作す者あり曰く、不倫悖德なる事實を材料とせる文學が社會をして不倫背德赴にかしむると謂ふが如きは蓋し實際に迂なる空言にして、徒らに罪惡を夢想して之に向つて苦慮する者なりと。蓋し半面の眞理にして、吾人と雖も現代の片々たる文學の爲に過らるゝ程に輕浮なる士女は其數社會に少なる可きは信じて疑はざる所、假令彼等が如何に筆を舞はして實感徵發的の文學を羅列したればとて之れに耽讀して身を過つ痴女愚果して幾人かある。然も吾人が尙ほ其取締を云々するは實際上社會に流す可き害惡の程度を豫見して謂へるにあらずして、健全なる文明社會は斯の如く不潔醜穢なる作物をして存在せしむることを快とせざればなり。巷路に棄てられたる塵芥か衞生上如何に有害なるべきや、將た如何に往來の妨害となるや等は之を顧みるに先ち人は先づ此不體裁を除かんが爲めに其掃除を命ずるなる可し。吾人は路上の塵芥と同一の理由を以て不潔なる文藝の取締を峻酷に勵行すべきを主張するものなり。

藝術に對する峻酷なる取締は少なからず藝術の自由を拘束して、終には其偉大なる產物の發現を沮害す可しと稱ふるものあり。然れども偉大なる天才は論ずるまでもなく、少しく器用なる藝術家は野卑なる事實を描いて野卑なる感想を抱かしめず、肉慾を美化し破倫を詩化するの術を知る。露骨なる筆致を以てするにあらずんば自家の高遠なる思想を叙ぶること能はずと歎ずる文學の天才ありや。

德川政府は努めて庶民の政治を議するを壓迫せんとせり。然も德川氏の文學は往々にして痛切骨に徹するが如き施政の諷刺を有す。彼等は鋭き論鋒を洒落なる文學の中に含ましむるの道を知れるなり。「文武兩道萬不通」の道化たる繪畫文章は實に松平定信の革政に對して放てる痛快なる皮肉なりしなり。當局の取締愈々嚴にして、彼等の文字は愈々溫和に、然も彼等の鋒芒は愈々鋭を加へたりしなり。現代の文學者果して戀愛を神聖視し之が透徹せる描寫を試みんとするの熱誠あらば、峻酷なる取締に遭うて、其字句更に精練し、其描寫更に深酷なるに至る可し。

凡そ文明の進化と共に露骨なる肉慾の描寫を嫌惡するに至るは各國共に其趣を一にし、吾國に於ても近く延寶天和寶永の頃までは殆ど春畫出版公許の時代と見ることを得可く書肆鱗形屋の如きは公然自家の出版に掛るとを揭げて敢て憚らざる程なりしも、軈て幕府は稍や其取締を嚴にして、禁令を發して松壽軒が浮世草子に至るまで風俗を亂すものとして刊行を禁ずるに至れり。貞享元年十一月に令を發して「むさとしたる小歌」の板行を禁じたる、元祿七年正月廿三日を以て花柳界の巷談を出版發賣せるの輩數名を牢舍せしめたる、元祿十三年に書肆の組合を設けて相互檢査の實を行ひ檢印捺付の制を定めたるを初め大小の禁令續發したるを見る。明治の聖代に猥雜極まれる肉慾小說

の取締ある固より當然のことたるなり。

然も藝術の取締を行ふに當りてや須く嚴正なる一定の標準に從つて之を爲さゞる可らず。春水、金水の飜刻を公許する當事者がモ・リエカル、ゾラの飜譯の發賣を禁止し、新聞小說として連載せられて何等の問題を惹かざりしものが一度單行本として刊行せらるゝや直ちに其發賣を禁ぜらるゝが如き、殆ど非常識の沙汰にして、何人と雖も其檢閲の標準那邊に在るやを知るに苦むならん。斯如のき曾に文學の發達を沮害するに止らず、又以て社會一般をして不安の情を抱かしむる所以にして苟も法を行ふものゝ最も愼む可き所に屬するなり。是れ畢竟檢閲の局に當るものゝ不靈に依るものなる可しとして、更に一般藝術に屬する高等の機關を設けて、更に一層眼識ある委員に向つて審査を行はんとするもの卽ち文藝院設立の議を生ぜる所以なる可し。

此の風評にして果して實現せらる可きや否やは頗る問題なり、然も若し審査委員にして適材を得んか、從來に比して遙に良好なる結果を得べきは蓋し明なる所にして吾人は幸に此風評が實現せらるゝの日あることを切に望むで止まざるなり。

○袁世凱氏の辭職

袁世凱氏が疾を以て職を辭し河南の故山に退隱する旨上諭を以て發表せられたり。彼は二日朝外務部に出頭するの途上に於て計らずも免官の上諭降れるなりと傳ふ。彼は翌三日天津に微行し、四日英國領事館を訪ひ夜に入りて再び北京に歸り、更に翌五日午前五時特別汽車に依て河南衛輝府に向へり。六日彼が故山の假寓に於て結びたる夢は恐らく安靜なるものにはあらざりしなるべし。

北京電報は頻りに彼れが辭職の理由並に此に添加して諸般の消息を傳へたり。曰く御史江春霖袁の罪狀十三箇條を列擧し戊戌政變後兩宮離間の苦策を弄し以て自ら威福を張るの手段となせるを述べ彈奏十回に及べり。曰く十二月二十九日醇攝政

親王は親しく江御史を引見し、攝政自らを初め王侯大臣に關して忌憚なく上奏す可きことを內訓せられたり。而して更に小說的なるは曰く、初め淸曆重陽の佳節江春霖が袁の罪狀を數へて闕下に彼を彈劾するや、同日席を同うし給へる故兩宮は涎然として御涙に昏れ給ひ此れよりして間もなく病の床に着き給へるなりと。曰く米國に派遣せる唐紹怡氏に對する獨斷の訓令、幷に上諭に反し世續氏に語れるのみにて伏奏せる財政計畫書の二件は同氏排斥の好口實を供し、次で陳給侍中、張御史の彈劾となれり。曰く兩宮崩御の前日王侯大臣相會して皇嗣問題を密議するの時、袁は自家の地位を西太后崩御と共に俄に危險に瀕せるを知り、急に醇親王の歡を買はんとして親王自ら帝位を踐まれんことを說きて、反つて親王の激忿を買ひ終に慶親王を初め一同の擯斥する所となりしなり。其他紛々たる飛報は一々枚擧に遑あらず。

然れども袁氏が軈て失意の境に立つに至る可きは兩宮崩御して溥儀位に卽き、其父醇親王攝政となれるの時に於て明瞭なりしなり。然れども彼の老獪なる或は此失意の境に活路を求めて其地位を保ち更に其立脚の基礎を固むることなしとも謂ふ可らずと思惟したるが、流石の彼も遂に施す術策盡きて、當然來るべき運命の手に運び去られたるなり。書曰、恃德者昌、恃力者亡、君之危若朝露、尙將欲延年益壽乎、則何不歸十五都。力餘つて德足らざる彼は其極りなき權變も用ゆるの地なくして故山に歸らざるを得ざるに至りしなり。

袁氏の排斥を以て一概に滿人派の勝利となし、頑迷不靈なる反動政策の復活を見るに至らんと杞憂するは非なり。而して袁氏の幕下として知られたる梁敦延氏が新に外部尙書署理に昇進せるを見るも此回の擧たる決して袁派全體を排斥するものにあらざるを知る可し。歐洲諸國は一般に袁氏の退隱を悲み、淸國の外交に喜ばしからざる變調を來す可きを危惧せるが如きも、之れ餘りに袁氏一人を重視せるの不明に因るものにして、氏の缺を補つて軍機大臣見習となりたる那桐氏を目して日

本政府藥籠中のものなりとなすが如きに至りては固より外人特有の臆説にして一笑の値をも有せざるものなり。

雜錄

米國工業管見

高橋誠一郎

現代の北米合衆國は之れを農業國と稱するよりは寧ろ工業國を以て目するを當れりとなす。素より農業は猶ほ聯邦各州經濟的活動の有力なる部分を占め、國内最多數の人民は衣食を此に求め、就中輸出貿易の約三分の二を供給し同國外國貿易を指導するの地位に在り。然れども工業は目今農業に比して資本の用途を供することより大にして、且つより高價なる價値生産を行ひつゝあり、最近に至るまで新世界の競爭の爲めに脅さるゝの機會多かりしものは舊世界の製造工業者よりも寧ろ農業家なりしが、今日に於ては已に此事なく、將來に向ては益々其然るを見る可きなり。

諸種の生産物を概括して論ずる時は吾人は米國農業の競爭は既に其局限に到達せりと斷言して憚らざるなり。豐饒なる未耕作地は漸次稀少となりつゝあり、而して其一方に於て人口は迅速に增加の勢を繼續し、益々都市的の性質を帶び來りつゝあれば、農産物の價格低落を來し且つ其生産の消費に比して急速に增加するが如きことは其必無を保することを得可し。從つて輸出せらる可き餘剩額は此後に於て殆ど增加することあらざる可し。

（以上は勿論概括して論斷を下せるものにして、即ち同國輸出貿易中の重要品たる小麥綿花並に肉類が將來に於て昔日に比し遙に遲緩なる進歩を示す可きの徵あるよりして謂へるなり。近年の發達に係る二三の商品、即ち最近に至りて多量の輸出を見るに至れる石油殊に綿花油、合衆國海外の新領地より生産せらるゝ砂糖、南部諸州に於て廣く耕作を初めたる米並に其他數種第二位に屬する貨物は如上の論斷に對し例外たる可きものなり）。洵に米國現今の外國貿易を以て二十年前のそれに比するに（特種の事情の爲めに生じたる異同を避けんが爲め一ヶ年の統計に據ることをなさず一千八